

愛知県自然環境保全地域

大 沼



 愛知県

愛知県自然環境保全地域とは

わたしたちが、健康で文化的な生活を享受していくためには、単に物質的な豊かさのみでなく、自然とのかかわりの中で、豊かな精神性を養うことが必要です。自然は、生命をはぐくむ母体であり、単に経済活動のための資源としての役割を果たすのみではなく、それ自体が豊かな人間生活に不可欠な役割をもっています。

このため、自然環境保全施策の基本となる法制度として、国においては昭和47年に自然環境保全法が、愛知県においては、昭和48年に自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例が制定されました。

愛知県自然環境保全地域は、この条例によって指定されるもので、すぐれた天然林や貴重な動植物の自生地などの貴重な自然環境を有する地域を、将来にわたって保全しようとするものです。



大沼の自然

大沼は、北設楽郡富山村を流れる漆島川右岸の急傾斜地に成立した自然林です。

大沼地区を含む富山・豊根村等の森林は、戦前から薪炭林として30年ぐらいの周期で伐採・更新が繰り返される広葉樹林でした。昭和30年以降、生活燃料が薪炭から石油に変わると、山の広葉樹林も多くはスギ・ヒノキの人工林に切り変わりましたが、大沼自然環境保全地域は、広葉樹二次林がそのまま保存されました。この地域は標高差が350mあり、この標高差の影響で植生の変化に富み、これらの植物に依存した特色のある昆虫類も生息する貴重な地域となっています。

大沼の植生

大沼の標高は、漆島川谷底の500mから右岸枝尾根の850mまでです。この標高範囲は中部地方の森林帯としては照葉樹林帯上部から冷温帯下部までにあたります。したがって大沼の森林では、標高差350mの斜面で暖帯カシ林要素から温帯ブナ林要素までのさまざまな種群を見ることができま

す。漆島川の斜面下部にはツクバネガシ、アラカン、ウラジロガシ、アカシデ、クマシデ、ヤマザクラ、コナラ、アサダ、モミ等の照葉樹、落葉樹、針葉樹の混交林が成立し、低木階以下にソヨゴ、シキミ、アセビ、ヒサカキ、ウラジロガシ、テイカカズラ、スズタケ等の常緑種群が見られます。また、漆島川に注ぐ数本の沢筋の礫堆積斜面にはケヤキ、トチノキ、ケンボナシ、ミズキ、イイギリ等の落葉樹が高さ15m以上の高木林を作っています。この溪側林の低木階にはチドリノキ、ウリノキ等が特徴的です。漆島川



本流沿いの岸壁にはイワタバコ、ハコネシダ、クジャクシダ、カタヒバ、イワギボウシ等が着生し、稀にサジラン、トキワシダもみられます。岸壁上に根を張って生育する常緑樹のヤマグルマ、崩れた沢筋に侵入するフサザクラ群落、沢の礫地林下に群生するフタバアオイは、本県内では北設楽地方以外では分布の少ない種です。

大沼地区の斜面上部は、標高700m以上に温帯性のブナが現われます。多くは直径20~30cmの太さですが、稀に直径50cm以上の大木も点在します。ブナと一緒に生育する樹木にはミズナラ、ミズメ、イヌブナ、アサダ、アカシデ等の落葉樹があります。低山地に多いコナラも標高800m付近まで混生します。



フタバアオイ(ウマノスズクサ科)

福島県以南の本州、四国、九州の温帯域に分布する地床生の多年草で、県内では三河山間部だけに生育しています。本種は葵まつりで知られる京都賀茂神社の紋章として用いられ、徳川家の家紋三つ葉葵のルーツでもあります。

イワタバコ(イワタバコ科)

湿った岸壁に着生下垂する暖帯・亜熱帯性の多年草ですが、森林の日陰がないと生育できないので県内の分布は三河山間部に限られます。8月、ナス科のタバコにやや似た紫色の花をつけます。



アサダ(カバノキ科)

全国的に分布しますが、県内では設楽山地のみに見られます。アサダの樹皮は粗く剥げて特徴があり、その材は重くて硬いので磨くと光沢がでます。アメリカでアイアンウッド、中国で鉄木の名があります。

ブナ(ブナ科)

日本の温帯山地にひろく分布しますが、本県では面の木峠、段戸裏谷地区にまとまった自然林が見られるのみです。東北地方の世界遺産・白神山地のブナは有名になりましたが、その日本海側チシマザサブナ群団に比べて、太平洋側のブナ林は混生樹種が多く林床にスズタケが優占するのでスズタケブナ群団として区分されます。



大沼周辺の動物

大沼とその周辺に生息している大型ほ乳類はシカ、カモシカ、イノシシ等です。この3種が同じ場所に生息しているのは、愛知県ではこの地方だけです。

愛知県のシカの生息地としては本宮山を中心とした地域と、この大沼を含む富山村を中心とした地域の二つがあります。また、カモシカは、長野、岐阜県側から本県に生息地を拡大してきたもので、現在は北設楽地方一帯の山林に生息しています。

ほ乳類調査の手法の一つにアニマルウォッチングがあります。大沼などに生息する大型の動物は、この方法で生息を確認します。アニマルウォッチングの手法は、動物が生活した証拠(痕跡)を探し、生息している動物を確認します。生活痕跡とは次のようなものです。

◆足跡

調査地に軟らかくて平らなところがあれば、足跡が見られます。最も分かりやすいのは数センチメートルの積雪のあるところです。

◆けもの道

足跡を探すと、一定の場所を往復しているところがあります。多くの動物が生息しているところでは、人が歩けるほど踏み固められた道になっていることもあります。

こうしてできた道をけもの道と言います。けもの道をたどって行くと足跡や糞、食痕などがあって、そのけもの道を利用する動物がわかってきます。



けもの道

中央下部の落葉のあるところをけものが歩く。



食痕

マツボックリをリスが食べたもの。

おおぬま
愛知県大沼自然環境保全地域の保全計画

(昭和53年3月24日指定)

指定理由

当該地域は、天竜川支流漆島川の右斜面に成立する落葉広葉樹等の天然林地帯である。

愛知県内においては、ブナの天然林の残されている数少ない地域の一つで、植生の垂直分布がみられ自然環境としてきわめて貴重な存在である。また林内にはスギタニルリシジミなどの蝶類が生息しており、県内ではまれな生息地となっている。

したがって、当該地域のすぐれた自然環境を保全するため、自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例第20条第1項第1号のすぐれた天然林の占める区域、及び同項第4号の植物の自生地及び野生動物の生息地として愛知県自然環境保全地域に指定するものである。

保全計画

1 保全すべき自然環境の特質

(1) 植生

漆島川右岸の急傾斜地に成立した温帯林で、標高500メートルから850メートルの陵線にかけて標高差350メートルの間を覆っている。

標高700メートル付近より上部はブナを主とする落葉広葉樹林が極相に近い状態で成立している。700メートル以下では、ウラジロガシ等の常緑広葉樹林となるが、クマシデ、トチノキなどの落葉樹及びモミ等の針葉樹も多く混成している。

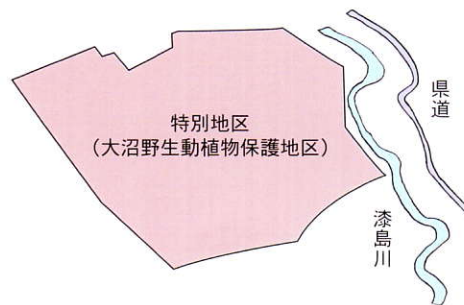
このように、当地域は冷温帯と暖温帯の境界に位置しているため、植物の種類も極めて豊富で、植生の垂直分布の推移が典型的にみられるものとしては、県内でも貴重な場所となっている。

(2) 野生動物

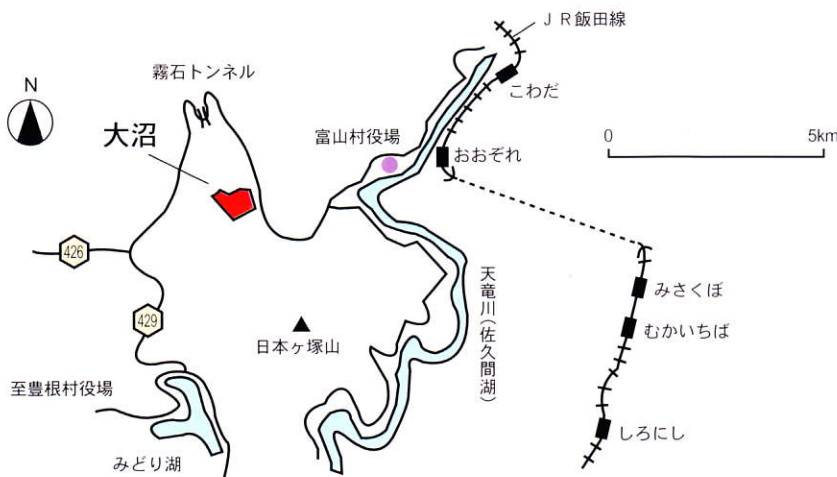
ブナ林の指標昆虫であるフジミドリシジミ、ブナ林に接するウラジロガシ林の指標昆虫であるヒサマツミドリシジミを同一地域内に産する、きわめて特色ある生態系を有している。また、天然記念物のカモシカ、県下では少なくなったシカ、ヤマネも生息している。

2 面積

特別地区 (全域 野生動植物保護地区)
15.13ha



大沼自然環境保全地域区域図



所在地 北設楽郡富山村字大沼

問い合わせ先

愛知県環境部自然環境保全室

名古屋市中区三の丸3-1-2
電話 (052) 961-2111 (代)

愛知県設楽事務所森林整備課

北設楽郡設楽町大字田口小貝津6-2
電話 (05366) 2-0544 (代)

富山村土木経済課

北設楽郡富山村字下板13-3
電話 (05368) 9-2011 (代)

※このパンフレットの作成にあたり落合圭次氏(中日本航空(株)・県自然環境保全審議会専門委員)、原田猪津夫氏(県自然環境保全審議会専門委員)のご協力を受けました。

